

はじめに

1992年の「国連環境開発会議(地球サミット)」では、持続可能な開発に注目が集まり、気候変動枠組協約及び生物多様性条約の署名も開始された。それから20年を経て、2012年6月に「リオ+20(国連持続可能な開発会議)」が開催され、「SDGs(持続可能な開発目標)」の策定が決定された。

温室効果ガス排出は増え続け、気候変動の脅威は減じておらず、損失・被害への対応策が議論されるに至っている。生物多様性の喪失スピードも減じていない。人類の持続可能性に大きな疑義が生じているのが現実である。こうした中、SDGsが構築される。

SDGsは、2015年に達成期限を迎える「MDGs(ミレニアム開発目標:貧困・飢餓の撲滅など8つの目標を提示)」を引き継ぐ「ポストMDGs」と一体化されることとなっている。リオ+20以降、SDGsのあり方とポストMDGsへの統合について、国内外での議論が進められている。

SDGsは、他の国際交渉と連動しながら、それらを補いつつ、停滞する持続可能な開発に向けた世界の取組みを大きく推進するための契機となる可能性がある。2015年9月にはSDGs/ポストMDGsが策定されることとされており、各国の交渉も開始され、NGOs・研究者・事業者等から様々な提案がなされるとともに、徐々に報道も増え始めている。

SDGsは、資源制約・環境制約に左右されない公正で持続可能な社会構築に、各国政府・事業者・NGO・研究者・メディア等が一丸となって取り組んでいくための大きな可能性を秘めている。ただし、SDGsが扱う内容は多岐にわたり、また、MDGsが扱ってきた途上国の貧困等の問題も扱う必要があり、各セクターの合意形成に向けた作業は容易ではない。

そこで、SDGsに関する最新の論点や国内外の動向を共有するとともに、効果的な形で議論を推進させ、今後を展望するために本書を発行する。

本レポートが、環境問題や貧困問題の解消、持続可能で公正な社会の構築等にご関心をお持ちの方々の一助となれば幸いである。

※なお、ポストMDGsとSDGsが統合された2015年以降の新枠組みの名称が正式に定まっておらず、本書で様々に呼ばれていることを付記しておく。